

ロボット支援胸腔鏡下縦隔腫瘍手術開始のお知らせ

縦隔腫瘍は比較的稀な疾患です。腫瘍が心臓付近に存在するため、従来胸骨縦切開という開胸手術での腫瘍摘出術が多く行われていました。これは既に確立された手技ですが強い術後創部痛を含む体への負担が大きい手術でした。そこで最近では手術手技の発達に伴い低侵襲である胸腔鏡手術を縦隔腫瘍に対しても行う施設が増えてきました。

当院でも殆どの縦隔腫瘍に対しては胸腔鏡で手術を行っています。胸腔鏡手術ではカメラにより術野が拡大視されるため、正確な手術ができ、手術中の出血量や術後合併症が胸骨縦切開手術よりも少なくなるとされます。一方手術難度が高い場合もあります。手術難度が高い原因のひとつに、手術器具が直線的で限られた動作しかできないことや縫合操作が難しいことが挙げられます。

その点、手術支援ロボットは鉗子先端に関節がついているため、従来の胸腔鏡手術よりも複雑で繊細な手術手技をより容易に行えるという特徴があります。またカメラぶれの無い3次元画像、手振れ補正機能などにより、安全かつ侵襲（負担）の少ない手術が可能となります。日本でも2012年に前立腺がんの手術で健康保険が使えるようになってから急速にロボット導入施設が増え、当院でも前立腺がん、腎がんに対してはロボット支援手術を行っています。2018年4月より縦隔腫瘍に対する「胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術・良性縦隔腫瘍手術（ロボット支援）」が保険診療として適用されることになりました。その他、肺癌を含む多数の悪性腫瘍に対しても同時に保険診療可能となり膀胱がん、胃がんに対してロボット支援手術は当院でも既に開始されています。

ただし、保険収載にあたっては術者要件と施設基準が定められています。術者要件は満たしていますが、ロボット支援胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術を施設として通常の保険診療として行うまでに5例の経験を義務付けられました。当院はがん診療拠点病院でもあり、患者さんに優れた医療を早期に提供するために、早期に5例の手術をさせていただくことを目指しています。上記のように当院では胸腔鏡下縦隔腫瘍手術の技術、経験も十分ではありますが、患者さんに不利益がないように、最初の5例の当手術関連の費用を病院負担で行わせていただきます。（当手術関連以外の医療費や、給食費、差額ベッド代、病衣代などの費用は別途必要です。）

当然ですが、当手術の実施に当たってはガイドラインを遵守し安全を一番に行っていきます。当手術のメリットをご理解いただき、優れた手術を受けていただきますよう、よろしくお願い致します。

この手術について、お聞きになりたいことがありましたら、当院呼吸器外科:大政貢
(連絡先:TEL 078-997-2200)がお答えしますので遠慮せずお申し出ください。



2019年1月23日

神戸市立西神戸医療センター
呼吸器外科部長 大政 貢
院長代行 竹内康人